

第一礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師

プレイスリード: 郭永東牧師



前 奏
頌 栄

540

主の祈り

ブレイズ

「主の山に備えあり」

「主は我らの太陽」

聖書朗読

列王記上 21:17~19

祈 禱

(旧約聖書 p 571)

賛 美

第二讚美歌 47

メッセージ

「ナボトとアハブ」

祈 禱

新生讚美歌 557

賛 美

献 金

報 告

新生 672b

頌 栄

祝 禱

会 衆

会 衆

会 衆

司 会

司 会

会 衆

牧 師

牧 師

会 衆

司 会

会 衆

牧 師

＜巻頭言＞

たとえそうでなくてもの信仰

郭永東牧師

列王記上 21 章に登場するナボテは、先祖代々受け継いだぶどう畑を大切に守っていました。しかしイスラエルの王アハブがその畑を欲しがり、譲渡を拒んだナボテに対し、王妃イゼベルは偽証人を立てて彼を陥れ、最終的には石打ちで殺してしまいました。このような不当な出来事は、現代の社会にも数多く見られます。

聖書には、ヨセフは兄たちの嫉妬によって奴隷として売られ、さらに無実の罪で牢獄に入れられました。それでもヨセフは神を恨まず、どんな状況にあっても神の主権を信じ続けました。「主がヨセフと共におられた」(創世記 39 章)と聖書は記しています。

私たちが理不尽な出来事に直面したとき、復讐や絶望ではなく、「復讐はわたしに任せよ。わたしが報いる」(ローマ 12:19)という神の言葉を信賴することが重要です。神が沈黙しているように思えても、主は決して私たちを忘れず、最も良い時に確かに働かれます(イザヤ 40:27-29)。

「すべてのことについて感謝なさい」(I テサロニケ 5:18)という御言葉の通り、苦しみの中で感謝する信仰こそが希望の扉を開きます。ハバククは国の滅びという絶望の中でも「主によって喜び、感謝」しました(ハバクク 3:17-18)。神は私たちを見捨てず、耐えられない試練を与えることはありません(I コリント 10:13)。

「たとえそうでなくても」感謝する信仰こそ、神が不可能を可能にされる扉を開く鍵なのです。



第二礼拝次第

メッセージ: 伊禮信義先生

司会: 渡真利彦文牧師

聖書: 申命記 6:4~13

メッセージ: 「シエマ・イスラエル」

プレイスリード: 「主の山に備えあり」

「主は我らの太陽」

賛美: 新生 102 新生 378



ファミリー礼拝

メッセージ: 伊禮信義先生

奏楽: 郭永東牧師

聖書: サムエル記上 1:10~18

メッセージ: 「祈りゆだねる」